

「自己点検・評価書」・「基礎資料」正誤表

大学名：大阪大谷大学薬学部

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	5	30-31	「 <u>老年薬学</u> 、 <u>処方解析学</u> 」	「 <u>老年薬学</u> 」、 <u>「処方解析学</u> 」
2	5	36	「 <u>卒業研究 II</u> 」が実施されているが	「 <u>卒業研究</u> 」が実施されているが
3	5	36-37	および木・金曜日の <u>全日</u> が	および木・金曜日の <u>3-5 限</u> が
4	6	19	分子化学 <u>I</u>	分子化学 <u>A</u>
5	47	17	科目名： <u>卒業研究 I</u>	科目名： <u>卒業研究</u>
6	47	17	開講年次： <u>5</u>	開講年次： <u>5-6</u>
7	47	17	単位数： <u>4</u>	単位数： <u>12</u>
8	47	17	実質時間数 30 時間を 1 単位として 換算： <u>4</u>	実質時間数 30 時間を 1 単位として 換算： <u>12</u>
9	47	18	科目名： <u>卒業研究 II</u>	削除
10	47	18	開講年次： <u>6</u>	削除
11	47	18	単位数： <u>8</u>	削除
12	47	18	実質時間数 30 時間を 1 単位として 換算： <u>8</u>	削除
13	47	19	* <u>卒業研究 I および卒業研究 II</u> については、そのまま単位を計上	* <u>卒業研究</u> については、そのまま単位を計上
14	54	2	(訪問時間閲覧資料 1- <u>11</u> 。)	(訪問時間閲覧資料 1- <u>11</u> )。)
15	82	15-16	予算 <u>及び</u> 執行	予算執行

※行の欄は、見出し等も含め、文字のある行をカウントし記して下さい。

※正誤の該当箇所が分かるよう、アンダーラインを引いてください。

■基礎資料

	資料番号	頁	箇所	誤	正
1	2-2	11	24 年度の実入学者数	152	157
2	15	176	職名	専任講師	講師
3	15	178	職名	(未記入)	助教
4	15	205	職名	専任講師	講師
5	15	216	職名	助教	教授
6	15	240	職名	教授	准教授

## (基礎資料2-2)直近6年間の学生受入状況

入学年度		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員	A	140	140	140	140	140	140	
実入学者数 <sup>1)</sup>	B	157	148	143	152	143	152	149
入学定員充足率 <sup>2)</sup>	B/A	1.12	1.06	1.02	1.09	1.02	1.09	1.07
編入学定員		-	-	-	-	-	-	
編入学者数 <sup>3)</sup>	C+D+E	-	-	-	-	-	-	-
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2年次 C	-	-	-	-	-	-	-
	3年次 D	-	-	-	-	-	-	-
	4年次 E	-	-	-	-	-	-	-

- 1)各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2)各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3)その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4)編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5)6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪大谷大学	講座名 分子化学講座	職名 講師	氏名 宇田川周子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年10月～	実習での少人数グループに対する理論解説及び実験指導	
	平成24年4月～	課題提出メールを利用した、授業の感想理解度の調査	
	平成24年4月～	毎年の授業評価を基に授業内容・方法の更新	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年10月～	実習テキストの編集・作成	
	平成24年4月～	担当科目の配布資料及び講義資料の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年5月～	学内FD講演会に参加	
	平成24年4月	第60回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) "Photochemistry of flutamide in various media: Investigation of the reaction mechanism as revealed by external magnetic field effects on product yields."	共著	平成23年11月	J. Photochem. Photobiol. A: Chemistry, 226, 57-63 (2011)
(論文) "Effect of Strong Vertical Magnetic Field on a Salt-Water Oscillator."	共著	平成24年8月	J. Phys. Soc. Jpn., 81, 094805 (2012).
(論文) "Magnetic field effect on photosensitized oxidation of 1,3-diphenylisobenzofuran in SDS micellar solution."	共著	平成24年4月	J. Photochem. Photobiol. A: Chemistry, 238, 16-19 (2012)
(論文) "Weak magnetic field effects on silver dendrite formation."	共著	平成25年9月	Bull. Chem. Soc. Japan, 86(12), 1447-1449, (2013).
(論文) "Magnetic Field Effects on Copper Metal Deposition from Copper Sulfate Aqueous Solution."	共著	平成26年4月	J. Phys. Chem. B, 118(18), 4889-4894 (2014).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 1,3-Diphenylisobenzofuranの光増刊酸化反応に対する磁場効果		平成23年9月	第6回日本磁気科学会年会
(演題名) 様々な溶媒中におけるフルタミドの光化学反応—磁場効果を用いた反応機構の解明—		平成23年10月	日本薬学会近畿支部
(演題名) Magnetic Field Effect on Photosensitized Oxidation of 1,3-Diphenylisobenzofuran in SDS Micellar Solution.		平成23年12月	The 9th Nano Bio Info Chemistry Symposium and The 6th Japanese-Russian Seminar
(演題名) Magnetic Field Effects on Lead Metal Deposition from Lead(II) Acetate Aqueous Solution.		平成27年10月	International Conference on Magneto-Science 2015
(演題名) 金属樹生成反応—ローレンツ力による磁場効果.		平成28年11月	第11回日本磁気科学会年会
(演題名) Magnetic Field Effects on Lead Metal Deposition.		平成28年12月	The 13th Nano Bio Info Chemistry Symposium and The 8th Japanese-Russian Seminar

(演題名)Spin dependent biological magnetosensitivity.	平成29年10月	International Conference on Magneto-Science 2017, Reims, Centre des Congr�s, October 23-27, 2017
(演題名) 金属樹生成反応－磁気力及びローレンツ力による磁場効果	平成29年11月	第11回日本磁気科学会年会<京都／日本>
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成23年平成27年 8月	スーパーサイエンスハイスクール（大阪府立生野高校） 郊外研修	
平成23年8月, 平成28年8月	大阪大谷大学公開講座 親子講座	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪大谷大学	講座名 分子化学講座	職名 助教	氏名 牧 祥
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
情報薬学基礎演習（週2回、各2時限）	平成24年-現在	新入生にパソコンの基本操作（電子メールの送受信方法、ネット検索の方法など）と、MS Word, Excel, Power Pointの基本を教える。	
物理系薬学実習（週3回、各6時限）	平成24年-現在	薬学に必要な物理、化学のテーマを扱った学生実験	
平成25年3月に卒業した学生の卒業研究指導	平成24-25年	磁気力を用いた塩水振動子	
平成26年3月に卒業した学生の卒業研究指導	平成25-26年	薬剤総量とジェネリック薬剤総量に対する多次元尺度構成法を用いた比較分析	
	平成25-26年	水の熱対流（ベナール対流）に対する磁気力場の影響の三次元数値解析	
平成27年3月に卒業した学生の卒業研究指導	平成26-27年	磁気アルキメデス浮上による模擬月砂粒子の磁化率と密度の同時測定	
	平成26-27年	リゾチームの結晶化条件の探索	
	平成26-27年	我国の主要感染症と地域性との関係における多次元尺度構成法分析およびHIV感染者数年次推移の時系列データ解析	
平成28年3月に卒業した学生の卒業研究指導	平成27-28年	Rayleigh-Benard対流の可視化実験と流れ場の三次元数値解析	
平成29年3月に卒業した学生の卒業研究指導	平成28-29年	Rayleigh-Benardモデルの空気の熱対流に及ぼす軸対称磁気力場の効果	
	平成28-29年	Hen Egg White Lysozymeを用いた結晶化手法の探索	
2 作成した教科書、教材、参考書			
平成25年度物理系薬学実習テキスト	平成25年8月	内容の加筆・修正	
平成26年度物理系薬学実習テキスト	平成26年8月	内容の加筆・修正	
平成27年度物理系薬学実習テキスト	平成27年8月	内容の加筆・修正	
平成28年度物理系薬学実習テキスト	平成28年8月	内容の加筆・修正	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
高校・大学連携事業 大阪府立 生野高等学校 スーパーサイエンスハイスクール ミラクルチャレンジ 講師	平成24年8月3日	磁気科学に興味を持ってもらえるような指導	
高校・大学連携事業 大阪府立 生野高等学校 スーパーサイエンスハイスクール ミラクルチャレンジ 講師	平成25年8月5日	磁気科学に興味を持ってもらえるような指導	
明石高専門 機械工学科5年生 熱統計力学の非常勤講師	平成26年4月-8月末	定期考査（中間考査、期末考査）は全て英語で出題した。講義も積極的に英語で実施した。	
高校・大学連携事業 大阪府立 生野高等学校 スーパーサイエンスハイスクール ミラクルチャレンジ 講師	平成26年度8月5日	磁気科学に興味を持ってもらえるような指導	
明石高専門 機械工学科5年生 熱統計力学の非常勤講師	平成27年4月-8月末	定期考査（中間考査、期末考査）は全て英語で出題した。講義も積極的に英語で実施した。オリジナルのテキストを作成し使用。	
高校・大学連携事業 大阪府立 生野高等学校 スーパーサイエンスハイスクール ミラクルチャレンジ 講師	平成27年8月7日	磁気科学に興味を持ってもらえるような指導	
II 研究活動(2011年4月以降の最近6年間で、査読付学術論文23報（筆頭17報）、紀要4報（筆頭1報）)			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Magnetic separation technique on binary mixtures of sorbitol and sucrose	共著	2014年	Journal of Food Engineering 120 C, pp. 31-36

(論文) Effects of magneto-Archimedes levitation on the quality of HEWL crystals: evaluation with white X-ray topography	単著	2014年	International Journal of Biomedical Soft Computing and Human Sciences 19, pp. 7-15
(論文) In situ observation of containerless protein crystallization by magnetically levitating crystal growth	共著	2016年	Japanese Journal of Applied Physics 55, 035505-1-6
(論文) Magnetothermal convection of water with the presence or absence of a magnetic force acting on the susceptibility gradient	単著	2016年	PLoS ONE 11(9) 0160090 (26 pages)
(論文) Magnetothermal convection of air in a shallow vessel under the application of an axisymmetric magnetic force	共著	2017年	Journal of the Physical Society of Japan 86, 024402 (10 pages)
2. 学会発表 (評価対象年度で国際学会発表8件, 国内学会発表21件)		発表年・月	学会名
(演題名) Magnetic induction of salt-water oscillator		2013年 10月13-17日	International Conference on Magneto-Science (icms2013)
(演題名) Effect of magnetic susceptibility gradient force on magnetothermal convection		2015年 10月28-31日	International Conference on Magneto-Science 2015 (ICMS 2015)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～平成29年3月	バイオメディカル・ファジィ・システム学会 評議員		
平成28年11月～平成29年2月	バイオメディカル・ファジィ・システム学会 第15期選挙管理委員長		
平成29年4月～平成31年3月	バイオメディカル・ファジィ・システム学会 理事		
平成29年4月～平成29年9月末	東京大学物性研究所 外来研究員		
平成29年4月～平成30年3月末	国立研究開発法人 理化学研究所 放射光科学総合研究センター共同研究契約締結		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪大谷大学	講座名 衛生・毒性学講座	職名 講師	氏名 山田 佳太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年1月～ 平成28年5月～	卒業論文や履歴書作成に必要な文章力の向上を目的とした、文章の添削指導 e-learningを利用した講義内容に関する問題演習の実施	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成27年3月～ 平成28年4月～ 平成28年4月～	衛生薬学実習テキストの作成(毎年改定) 「食品安全学」の講義資料作成(毎年改定) 「毒性学」の講義資料作成(毎年改定)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成26年4月～ 平成28年7月	FD講演会の聴講 授業内容のビデオ撮影による自己評価	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
感染生胃腸炎 ロタウイルス感染と糖鎖	単著	平成27年11月	最新医学社、最新医学 70 巻 p66-73
Expression of the clustered NeuAc $\alpha$ 2-3Gal $\beta$ 0-glycan determines the cell differentiation state of the cells,	共著	2014年9月	The Journal of Biological Chemistry, 289(37) : pp 25833-25843
Common glycoproteins expressing poly lactosamine-type glycans on matched patient primary and metastatic melanoma cells show different glycan profiles	共著	2014年2月	Journal of Proteome Research, 13(2) : pp 1021-1033
Analysis of O-glycans as 9-fluorenylmethyl derivatives and its application to the studies on glycan array	共著	2013年3月	Analytical Chemistry, 85(6) : pp 3325-3333
One-pot characterization of cancer cells by the analysis of mucin -type glycans and glycosaminoglycans	共著	2012年2月	Analytical Biochemistry, 421(2) : pp 595-606
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
リン酸化並びに硫酸化糖鎖の網羅的解析技術の開発		平成28年9月	第35回日本糖質学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成26年11月～	健康食品相談会の開催(年1回)		
平成27年2月24日	関西衛生科学研究会での招待講演		
平成27年9月18日	フォーラム2015: 衛生薬学・環境トキシコロジーでの招待講演(教育講演)		
平成17年3月～	日本薬学会会員		
平成20年5月～	日本糖質学会会員		
平成26年5月～	日本毒性学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪大谷大学	講座名 免疫学講座	職名 教授	氏名 戸村 道夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成27年4月～	免疫系の理解に、細胞が動く映像を用いて生体現象の理解を促す教育を開始した。	
	平成28年4月～	免疫生体防御学Ⅰ、およびⅡにおいて、授業内容の優先度をより設定した講義の実践に努め、学生の勉強の効率化を図っている。前回講義の確認テストによる復習による従業内容確認による知識の固定化の実施。中間、および期末テストにおける描画による免疫応答について、文書でなく脳内イメージの形成による理解の促進。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A rare subset of skin-tropic regulatory T cells expressing Il10/Gzmb inhibits the cutaneous immune response.	共著	2016年10月	Sci Rep. 6: 35002
(論文) Novel full-spectral flow cytometry with multiple spectrally-adjacent fluorescent proteins and fluorochromes and visualization of in vivo cellular movement.	共著	2015年9月	Cytometry A. 87:830-42
(論文) Tracking and quantification of dendritic cell migration and antigen trafficking between the skin and lymph nodes.	共著	2014年8月	Sci Rep. 4: e6030
(論文) Recirculating memory T cells are a unique subset of CD4+ T cells with a distinct phenotype and migratory pattern.	共著	2013年2月	J Immunol. 190: 970-976
(著書) 蛍光色素の基本、選び方からマルチカラー解析まで、P22-37	単著	2016年	新版 フローサイトメトリー もっと幅広く使いこなせる! マルチカラー解析も、ソーティングも、もう悩まない! 羊土社、実験医学別冊(中内啓光/監, 清田純/編)、羊土社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Tracking effector cells from gut immune system to systemic immune system		2016年12月	2nd JST-SICORP and 6th ORTHO
Immunization induces migration of MHC Class II intermediate dendritic cells from inflammatory sites to draining lymph nodes.		2016年12月	第45回日本免疫学会学術集会
腸管から全身リンパ組織に移行するエフェクターT細胞の動態		2016年11月	第12回食品免疫学会学術大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成1年4月～	日本免疫学会学会員
平成28年4月～	日本免疫学会学会員評議委員
平成27年4月～	米国免疫学会学会員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

## (基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪大谷大学	講座名 実践医療薬学講座	職名 准教授	氏名 初田 泰敏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月	WebシステムREQUESTの導入による授業の改善(H26年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト)	
	平成28年4月	REQUESTによる効率的な双方向授業手法の確立(H28年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト)	
	平成29年4月	iPadを利用した双方向授業システムREQUESTの改良(H29年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト)	
	平成29年4月	大型ディスプレイを活用した学生向けインフォメーションシステムの開発(H29年度学長裁量経費による教育改革推進プロジェクト)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年5月～	担当科目の配布資料、講義資料、実習テキスト等の作成	
	平成26年4月	「みてわかる薬学 図解 医薬品情報学」(南山堂)	
	平成26年4月	双方向授業支援システムREQUESTの開発	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年	「大阪大谷大学薬学部の医薬品情報教育(私見)」(薬事新報)	
	平成28年7月	「双方向授業システムの開発と教育手法の構築」(本学FD講習会での講演)	
	平成28年8月	「双方向授業システムの開発と教育手法の構築 —iPadを活用した双方向授業の実践—」(日本薬学教育学会発表)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年5月～	学内のFD講習会に参加	
	平成26年4月～	薬学部演習問題作成システムQmakerの開発、運営	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 蛍光試薬を用いた手洗い実習及び抗悪性腫瘍薬調製実習の教育効果	共著	平成25年7月	Clinical Pharmacist, vol.5
(論文) Non-Destructive Evaluation Method of Pharmaceutical Tablet by Terahertz-Time-Domain Spectroscopy: Application to Sound-Alike Medicines	共著	平成25年9月	Journal of Infrared, Millimeter, and Terahertz Waves, Vol.34
(論文) アドレナリン自己注射薬に関する教育現場での認識調査と学校薬剤師の現状と役割	共著	平成28年1月	医療薬学, 42, 31-39
(論文) Enhanced Understanding levels of Palliative Care in Pharmacy Students through Participating Clinical Training in Hospitals	共著	平成28年3月	J Pharm Pract, 1-5
(論文) 大阪府下病院における経腸栄養剤の使用状況と経腸栄養剤施用患者への薬剤投与実態に関する現状調査	共著	平成28年5月	医療薬学, 42(5), 364-372
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) MongoDBで構築した医療用医薬品添付文書データベースにおけるUIの装備		平成28年6月	第19回日本医薬品情報学会
(演題名) タブレット型端末用服薬説明支援アプリケーションによる小児薬剤管理指導と効果		平成28年8月	第5回小児多職種研究会
(演題名) 双方向授業システムの開発と教育手法の構築 —iPadを活用した双方向授業の実践—		平成28年8月	第1回日本薬学教育学会

(演題名) 当院におけるプレアポイド報告の分析と薬学的介入の効果	平成28年9月	第26回日本医療薬学会年会
(演題名) 末梢静脈栄養法 (PPN) 用輸液における各種微生物の増殖と水溶性ビタミンの影響	平成28年9月	第26回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成23年5月～現在	エッセイ「Across the university」連載 (薬事新報)	
平成23年4月	平成23年度大阪薬業クラブ公益助成事業にて薬業連携に関する研究採択	
平成24年10月～現在	エッセイ「A comedy in long-shot」連載 (大阪府薬雑誌)	
平成24年10月～現在	大阪府立母子医療センター、小児用に対する服薬説明アプリケーションの開発(共同研究)	
平成25年7月	第16回日本医薬品情報学会総会・学術大会 座長	
平成25年12月	第20回淀川区・東淀川区耳鼻咽喉科研究会学術講演会 講師	
平成26年8月～現在	近畿国立病院薬剤師会、アンケート調査システムの構築と運営	
平成26年9月～現在	日本医薬品安全性学会評議員	
平成28年8月～現在	大阪府薬剤師会 地域保健委員会委員	
平成29年5月15日	ATCエイジレスセンター「薬に関する相談会」アドバイザー	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。